

月

E 24  
189

葛城山寺跡

三編  
終







梅蝶樓國貞画

萬紅葉 三編  
宇津谷片

升題曲五因号

庄錦昇堂

上







酒肴 金

梅園  
柳水亭  
三つめ

魚の天小戻る浅羨るに鶯の鶴の長脚と  
借る歩むとせし蟹のかけとが甲の似せし  
空と穿るの験ふ足こそと知るの通るの鎖鎖羽を  
撥けても燈系蜻蛉量の中も鰐の五徳の足と通ふ立  
灰混闇を開くても樂部獅子と学ぐと吹簫の聲と  
窄めどんをせよ容れられぬ食を各脩が具る世目小俱  
らざる欲を懷けバ文弥が百金と携ふる重兵衛が百金と  
奪ふて燧山の薪を肩ひ土舟の石を抱く此理を察て十歳  
己下の君子達危き小幾きとあはる

安政三年

暮秋脱稿

柳水亭種清







白木屋於駒

尾花才三郎

暴子小矢

筑田鬼藏











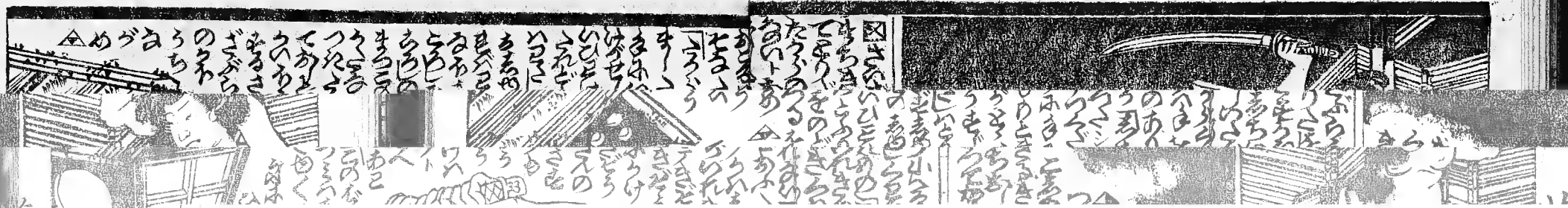
[illegible]





[illegible]















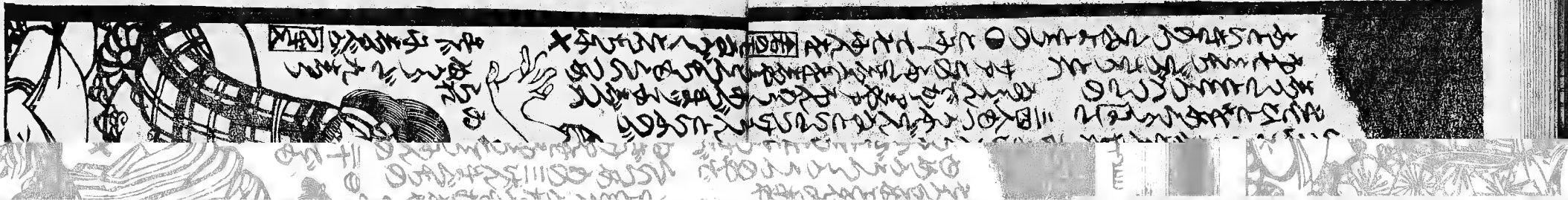
で

為志



[illegible]





[illegible]













